

復テ対策レポート

鮮度を保つための工夫

成績向上委員会

- ・著作権は成績向上委員会（株式会社アップツー）にあります
- ・本内容の一部または全部を複製および転写することを禁じます

講座生のみなさんへ

こんにちは、タイガー山中です。

先日発表しましたレポート「時間短縮のマジック」では、

どうしても、A問題の正答率が上がらない！

何回やっても、時間短縮ができない！

という方へのヒントになればと、私が実践しているちょっとした工夫を公開しました。

講座生の方からは、読んでの感想、および、実践しての「成果」について報告いただきましたことを大変うれしく思っています。

とはいっても、実践された方、そして成果が出た方だからこそ、次の問題が発生するものです。

そこで、「時間短縮のマジック」を実践され、次のステップに進まれた講座生の方たちからいただいた「ある相談」をもとに、レポートを作成してみました。

どうぞ、お付き合い下さい。

小6 メイ さんからの質問

■実践したこと:

タイガーさんの研究レポートを拝見し、時間短縮のマジックを実践し、週例テストで成果を上げることが出来ました。同じ問題を何回もやる事の意味、全く知りませんでした。すっかりはまっています。

■実践した結果:

結果はその時はとても良かったのですが、、、
もしかして、タイガーさんの「チョットした工夫」というのはこの続きがあるのでかもしれないと思い質問します。

春休みを挟み、2月から今までの範囲でクラス分けテストが、ゴールデンウィーク最終日にあり、取り組んでいる真っ最中です。

既に2月、3月に、100%の正答、時間短縮をした算数の問題に再度取り組んでいるのですが、30%ぐらいの出来なんです！

2回目でも、「解き方」がわからなくて時間がかかる問題もあります。そうして3回目にようやく100%になります。

たった1ヶ月でこんなに忘れちゃうものでしょうか。

これで良いのでしょうか。それとも2月、3月での取り組み方が間違っていたために、身につけていないということなのでしょうか。

メイさん、質問ありがとうございます。

レポート「時間短縮のマジック」は、続けるつもりで書いたものではなかったのですが、おっしゃる通り「ちょっとした工夫」はまだあります。今回はそのあたりについて、レポートを書くことにしました。

さて、100%の正答率、1/2の時間短縮を徹底することにより、週例テストでは成果があった。

しかし、1ヶ月もすればすぐに忘れてしまう。

この事実、普段から勉強を見ている親にとっては、ゾツとしますね。

塾の復習テスト（単元テスト）までは鮮度を保つことができて、1ヶ月もすれば忘れてしまっただけは、あまりにもったいない。そんなことで大丈夫なの？と心配になる。

Bレベル問題はもともとすぐには解けなかった問題なわけですから、すぐに忘れてしまうのはわかる。

ただ、Aレベル問題は、子供にとって簡単な問題なはず。その問題までも忘れてしまうなんて信じられない！

こう思ってしまいますよね。

ただ、結論から言いますと

すぐに忘れることに、問題はない

ということなのです。親であるみなさんの気持ちはよくわかります。子供を指導する側の私たちだって同じ気持ちです。

「これ、1ヶ月前にやったやろ！」

そう叫びたくなるものです。

でも、多くの生徒たちを指導してきたことは、遅い早いの違いはありますが、みんな忘れるという事実です。

大切なのは、

忘れるという前提で、どのような対策を取るか？

なのです。

私はこれまで、生徒たちをやる気にさせる方法やら、速く理解させる指導法などをトライ&エラーの繰り返しにより探してきました。

今回の相談にある「勉強したことをすぐに忘れてしまう」といったことにも、いろいろと自分なりに取り組んできたわけです。

もう講座生のみなさんもお存知だと思いますが、私とストロング宮迫は常に、

「子供のせいにしてない」

というスタンスです。ですから、生徒たちに対しては、

「忘れることはダメなこと」

といった指摘はしません。もちろん、親のみなさんにもこのスタンスでいって欲しいと願っています。

これは、すごく大切なことです。ここが欠けてしまうと、子供との勉強は成り立たなくなるからです。

今回の相談に限らず、勉強で最大限の成果を出すために必要なことは、

子供に思い切って、勉強をさせることなのです

記憶なんて忘れるもの。それを「忘れるな！」なんて指摘されてしまうと子供たちはどうなるか？

まず、覚えること（暗記）に慎重になる。そして、慎重になるあまり、時間がかかってしまう。結果、勉強の効率がガクンと下がります。

これじゃ、意味ない。だから、こう言うのです。

忘れることを気にするな！また覚えればいいやろ！

さて、ここからが本題となります。

前回のレポート（時間のマジック）にも書いたように、勉強の回数が増えるほど鮮度は長い時間保てるようになります。

とはいっても、何回もやるとなれば時間がいくらあっても足りない。

どうするか？

なんとか、**鮮度を保つことはできないか？**と思うわけです。

私もそう思って、いろいろと取り組んできました。できることなら、子供たちの頭の中を覗けたらいいのになんて、無理なことを考えながら、いろいろとやってきました。

そこで、何をどう考え、どんな工夫ができるのかを一緒になって考えていきましょう。

まだ、完璧な攻略とはいえませんが、やればやるだけ効果はありますので、お子さんとの勉強に役立ててもらえたらと思います。

では、3つに分けて話を進めていきましょう。

段々と難しくなりますが、その分効果あるやり方です。その3ができるようになると、1単元の確認が5分でできるようになります！

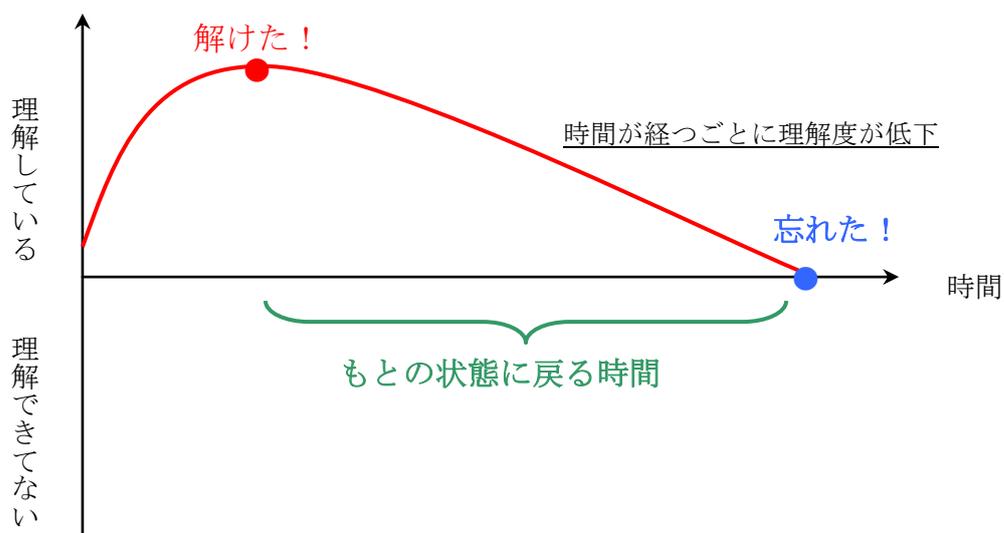
■ 鮮度を保たせる工夫（その1）

■ 鮮度を保たせる工夫（その2）

■ 鮮度を保たせる工夫（その3）

鮮度を保たせる工夫（その1）

まず私がしたことは、例のアレです！



ピンとききましたよね。

勉強をして1度理解したものも、放っておけばいずれ忘れてしまう。これを生ものに例え、「鮮度」なんて呼んでいます。

忘れさせない1番の方法は、

忘れる前に、確認をさせる

なんですね。まあ、当然といえば当然やけど。

でも、大切なのは、**タイミング** なのです。

例えば、1ヶ月もすれば忘れてしまうことがある子でしたら、

復習テスト（単元テスト）が終わって1ヶ月が経つちょっと前に、確認作業をするのです。

確認作業といっても、前回使った「いけドンシート」を出してきて、解かせるだけでOKです。

これが、鮮度を保たせる工夫（その1）でして、

「そろそろやっとなないとヤバイかな？」というタイミングで、再確認をすることにより鮮度を保つやり方です。

ここまです読んで、1度やった勉強を1ヶ月以内で繰り返していたら、来月、再来月には勉強量が2倍、3倍になってしまうのでは？と心配になったかもしれません。

実際にやってみたら気づくはずですが、そんなことはありません。

回数が増えるごとに、鮮度が長持ちするようになるからです。

1ヶ月以内に再確認すると、今度は3ヶ月もつようになる。そこで、再確認しておくとは1年もつ。

この周期は、子供によって違いますし、教科、単元、暗記事項によっても違いますので、大体で構いません。

もしも、子供が「あ～、これならできるよ！」と即答しようものなら、それでOKですから。

もちろん、本当に大丈夫かな？と半信半疑の場合には、「あっ、そう。じゃあ、見せてみて！」と確認をすることも忘れずに。

子供には「忘れてもいいよ」と安心をさせる言葉を言っておいて、
実は、忘れさせないように管理をしていくということなのです。

側について勉強をしている方であれば、少し気をつけるだけで、すぐにできる
ことです。

さて次は、鮮度を保たせる工夫（その2）です。

今度は、

1回目の勉強時に工夫することで、鮮度を保たせる方法はないか？

と考えると、いろいろ試した結果、成果が確認できたやり方です。

鮮度を保たせる工夫（その2）

1度勉強したことを忘れるまでの期間は、個人差があります。とはいえ、同じ子でも「教科」や「単元」、「暗記する内容」によってもまったく違うわけです。

いや、本当に不思議なのですが、暗記力抜群の子で、成績だってトップレベルの子が「誰もが1度覚えたら忘れないような暗記」をどうしても忘れてしまうのです。

もちろん、本人はまじめにやってのことです。最初は、「おいおい、マジかよ！」と驚きましたが、1週間以内にはまた忘れる。その1週間後どうかな？と確認すると、また忘れる。こんな例外中の例外だってあるのです。

もうここまでくれば開き直ればいいですし、私も愛嬌だと思うようにしています。とにかく私たちがすべきなのは、

テスト前には、必ず確認をするようにするだけ

ですから。

ある生徒なんか、どうしても忘れる事例があり、入試の前日に3回も確認をしたことがありました。でも、そうすることで本人も、「これを覚えたから、もう大丈夫！」なんて、妙な自信を持って入試に臨めたのです。

一方で、同じ子でも「忘れにくいもの」も存在します。一度勉強したことを3ヶ月たってもちゃんと覚えているわけです。

そんなとき、

頭の中、いったいどんなになってるんやろ？

とってしまいます。

これさえ分れば、**全てを忘れにくくすることができるのに！**
と思うわけです。

私が、生徒たちを見てて、気づいたことに

**速く暗記したものは、忘れるのも速い
時間をかけて勉強した問題ほど、忘れにくい**

というのがあります。これは、みんなに共通するようです。

つまり、鮮度を長持ちさせるためには、必然的に時間をかけないといけないのでは？となってしまう。

これでは、解決策になりませんよね。

そこで、「ある言葉」をヒントにしました。

勉強するとき、「ある言葉」を発したときの問題は、鮮度が長持ちすることに気づいたのです。

その言葉とは、

「あ～、そういうことね！」

子供の側で勉強を見ている講座生のみなさんであれば、何度も聞いたことのある言葉ではないでしょうか。

もし、勉強しているときにこの言葉が聞けてないのであれば、勉強のやり方を見直す必要があると思います。

この言葉を発するときは、子供たちは非常に良い状態で勉強をしているといえます。

そして、良い状態だからこそ、しっかりと頭の中に納まり易く、結果として忘れにくいのではないのでしょうか。

私は、「あ～、そういうことね！」と発した生徒に対して、

「どうや、シツクリきたか!？」

と返すようにしています。

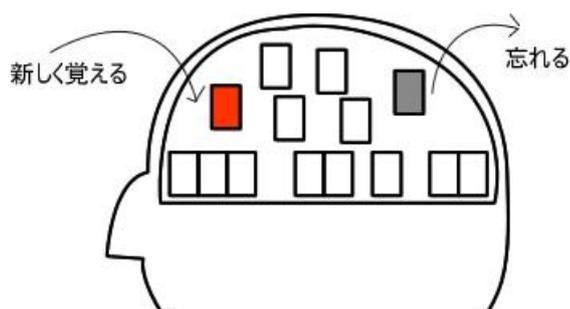
普通の勉強の状態と、シツクリくる勉強の仕方。いったい何が違うのでしょうか？

そして、頭の中はどうなってるのでしょうか？

まず、普通ですと

勉強をして新しいことを覚える。
前のことを忘れる。

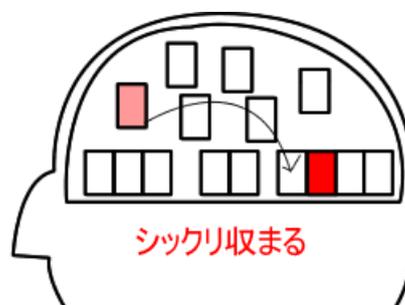
こんなイメージです。



では、「あ～、そういうことね！」と言ったときはどうか？

きっと、こんなイメージだと思う
のです。

今まで勉強したことの中に、ピッタリ
収まり、より深く理解できた状態です。



こうなれば、同じことを覚えても、鮮度は長持ちします。

「あ～、そういうことね！」とよく言う子は、自分から意識しているようです。

常に「これって、どういうこと？もしかして・・・」と勉強をするときは、自問自答しながら勉強しているようです。

この2つの違いは、「丸暗記」と「関連づけての暗記」の違いともいえる
でしょう。

さて、

1回目の勉強時は、できるだけ「関連づけての暗記」を目指すべき

というのはわかったところで、どんなやり方が有効かについて話を進めていき
ます。

私が生徒と勉強をする際には、常に

- ・ 関連づける
- ・ 印象づける

を心かけています。これは、みなさんも経験あると思うのですが、

印象に残っている問題ほど、忘れにくい

からです。

新しい情報を子供の頭に入れるときは、できるだけ頭の中を整理させていくことを意識しながら、勉強を進めていくのです。

こんなイメージですね。



とはいっても、丸暗記することだって、ときには勉強では必要です。またすぐに忘れればいいのです。鮮度を保たせる工夫（その1）を使って、鮮度を保てばいいのですから。

では、関連づけたり、印象づける勉強のやり方について考えていきましょう。

ポイントはこの2つです。

「視覚」と「聴覚」に訴える

目で見せて、耳で聞かせて、勉強をしていくのです。

そのために威力を発揮するツールこそが、

いけドンシート

なのです。

まずは、「**視覚**」によって関連づけたり、印象づけるためにどうするか？

よくテキストに線を引いたり、ノートにポイントを書いたりしますが、これ以外にもいろいろと策はあります。

- いけドンシートに問題を貼る
- 解答を問題の下に書く
- A、B、Cに分けてまとめておく

これだけでも、頭を整理させるのに役立ちます。

いけドンシートに問題が貼ってあるだけで、選ばれし問題と子供は受け止めません。

その選ばれし問題の下に、解答がある。間違えた場合などは、ポイントなどを書くことでより印象づけることができます。

問題集とノートが別になって、いくらノートにはポイントが書いてあっても、どの問題なのかはひと目ではわからないのですから。

いけドンシートに問題を切り貼りする作業は面倒ですが、鮮度を長持ちさせる作業の1つだということを再確認してください。

また、A、B、Cにちゃんと分けておくことも忘れないでください。

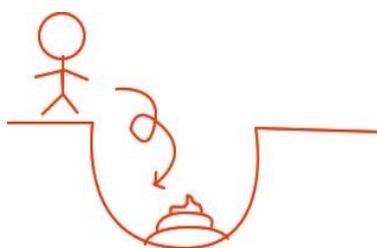
頭の中は、单元ごとにまとまっているだけではないのです。レベル別に頭に納まっていたりもします。

「Cレベル問題って、どんな問題があった？」

と尋ねると、ちゃんと答えることができるのは、苦手なグループとして頭にあるからです。これは、関連づけて覚えさせるやり方のひとつです。

また、こんなものもあります。

生徒が「引っかけ問題」に間違えたとき、私はいけドンシートにこう書きます。



ちょっと、下品なもので恥ずかしいのですが、一応は「落とし穴に気づかず落ちた」イラストです。

たったこれだけで、生徒には「こんな問題に引っかかった！」と印象づけることができます。

男女問わず、学年も問わずみんなに書きます。

文句を言われようものなら、「書かれたいくなければ、引っかかるな！」とキッパリ言います。

もちろん、学校のノートでなく、家庭学習用の誰にも見られる心配のない「いけドンシート」だから**赤ペン**で書くのですが。

不思議なもので、慣れると自分から書くようになるのがおもしろいところです。

次に、「聴覚」によって関連づけたり、印象づけるやり方です。

- 勉強中は、とにかく子供に声を出させる
- 親の発言は、頭を整理させるために使う

親子で勉強するとき、

体力的に疲れるのは子供。精神的に疲れるのは親。

というのが理想です。

勉強中、暗記をするときも、問題文を読むときも、考えるときも、解答を書くときも、常に子供に声を出させるべきです。

大きい声であればあるほど、頭は整理されます。

子供たちはよく、疲れたことを理由に「問題を代わりに読んで～」なんて言ったりしてきますが、もってのほかです。

勉強を短時間で終わるため、そして、鮮度を長持ちさせるためにも、自分の声で印象づけさせるのです。

一方、親の声ですが、

- 「ということは？」
- 「つまり、どういうこと？」
- 「これって何かと似てない？」

という風に関連づけて覚える際の補助を心掛けるべきです。

解説するときなども、ポイントだけを言うだけにとどめて、あとは子供にバトタッチするのが理想です。

鮮度を保たせる工夫（その3）

ここまで、その1、その2と進めてきましたが、次で最後となります。

このやり方を習得できれば、効果は抜群です。

なぜなら、

1 単元の確認を5分足らずで済ませてしまうのですから。

別に新しいやり方ではなく、その1、その2がしっかりできていればできることです。

逆に、その1、その2がいかげんな状態であれば、効果を発揮することはできません。ここが難しいところなんです。

やり方を説明します。

- 教材は使いません
- ↓
- 親子で向かい合います
- ↓
- そろそろヤバイかな？と心配な単元を伝えます
- ↓
- 確認のスタート

ここでは、テキストやいけドンシートは使いません。なぜなら、

頭の中にあるいけドンシートを使うからです。

親子で勉強していれば、親の頭の中にも同じ映像があるわけですから。

そして、親子で向かい合い、お互いが見つめ合います。

もし、見つめ合うことで集中できないようでしたら、目を閉じたり、伏せても構いません。

次に、単元を指定します。

そして、こう言うのです。

「この単元について、頭の中にあるものを全部言っていこう！」

順番なんてどうでも構いません。思いつくことから、どんどん言わせていくのです。

「あ～、ここを言ってるな！」と確認しながら聞いていきます。

もし、詰まってしまったときには、助け船を出してやります。

「じゃあ、その前はどんな問題があった？」

「この単元のCレベル問題は、どんな問題だった？」

お互いがあたかも、同じいけドンシートを見てるかのように話をドンドンつなげていきます。

私が生徒とこの確認作業をしている最中に、お母さんがお茶などを出してくださることがあるのですが、最初はビックリされます。

お互いお母さんを無視して、「お～、見えとるやないか！」などと訳のわからない会話をしているのですから。

傍から見ると、異様な雰囲気ですが、回数を重ねるごとに確認できる量も増えていき、1単元の確認も5分程度で済むようになります。

最初のうちは、嫌がったりする子もありますが、私の真剣な態度に押されてか、みんなやるようになります。

終わったあとは、子供たちも頭がスッキリするのか、爽快な表情を浮かべるものです。

頭の中は、こうではないでしょうか！



難易度の高い親技ですが、是非トライしてもらいたいものです。

以上、「鮮度を保つための3つの工夫」についてのレポートでした。

「タイガー山中って、こんな指導するんだ〜？」で終わるのでなく、「ちょっと試してみよう」となることを期待しております。

講座生のみなさんの健闘を祈ります！

タイガー山中